

# あなたのスキルは社会に役立つ

## エンジニアだからできる社会貢献

東日本大震災の発生直後に発足したHack For Japanや「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーを始めとして、日本各地で技術を活用した社会貢献活動が行われています。本連載では、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアだからできる社会貢献」の取り組みをお届けします。

第119回

### Clubhouseでシビックテックを語ろう

●佐藤 哲也(さとうてつや) Code for Oita / シビックテック広場  @satetsu

Code for Oita / シビックテック広場の佐藤哲也です。音声SNS「Clubhouse」<sup>注1</sup>で、毎週シビックテックをテーマにしたルームを開催しています。その名も「シビックテックを語ろう」。今回はClubhouseを利用して、地域を越えたシビックテックの活動を共有する話題を紹介します。

#### Clubhouse使ってますか？

Clubhouseをみなさんは利用しているでしょうか。ユーザー登録すれば、誰でもルーム(部屋)を作ることができ、ルームに参加したみんなで会話を始めることができるサービスです。雑談からビジネス、政治の話にアニメ、ゲーム、スポーツなどなど多種多様なルームが作られ議論が行われています。ネットになじみがある方であれば、IRC (Internet Relay Chat) の音声版といえピンとくることでしょうか。また、アマチュア無線をご存じの方なら、ラグチューといえその雰囲気伝わるといえるでしょうか。

2021年1月下旬に日本でもサービスが開始され、テレビやラジオでも連日紹介される盛り上がりを見せました。当初はiOSだけでしか利用できなかったのですが、2021年5月にはiOS版に加え、Android版のアプリがリリースされました<sup>注2</sup>。また、2021年7月からはユーザーの招待制を廃止して正式リリー

スに至りました<sup>注3</sup>。サービス開始時の加熱ぶりは見られなくなりましたが、現在でも活発にルームが開かれています。

筆者も2021年1月にClubhouseの登録をしてから毎夜トークルームをはしごして、議論に参加していました。新型コロナウイルス感染症の影響で外出ができず、対面で集まることが困難な状況が続いています。そんな状況でオンラインではありますが、人が集まることができるサービスとしてClubhouseは活用されています。

#### シビックテックの話がしたい

Clubhouseで毎週金曜日夜にトークルーム「シビックテックを語ろう」を開催しています。そのきっかけのお話をしましょう。

筆者は大分県でCode for Oitaの活動に参加しています。毎月行っていたミーティングなど地域におけるシビックテック活動も新型コロナウイルス感染症の影響で停滞せざるを得ませんでした。

前述のとおり、筆者はClubhouseを愛用していましたが、シビックテックに関する情報交換や議論を行う場所は残念ながら見つかることができませんでした。そんな中、Clubhouseで青木和人さん(@ujigis)が入っている、ウィキペディアタウンのルームにたどり着きました。

青木さんと意見交換する中で、シビックテックの

注1 <https://www.clubhouse.com/>

注2 <https://jp.techcrunch.com/2021/05/18/clubhouse-for-android-beta-in-japan/>

注3 <https://blog.clubhouse.com/opening-day/>

話をしたいという願望を伝えました。シビックテックについて語る場所をお試しで開催してみることになりました。これがきっかけで2021年5月28日トークルーム「シビックテックを語ろう」がスタートしました。

もうひとつのきっかけは、小泉勝志郎さん(@koi\_zoom1)<sup>注4</sup>です。小泉さんはClubhouseに作成できるクラブ(グループ機能)で「シビックテック広場<sup>注5</sup>」を運営しています(図1)。トークルーム「シビックテックを語ろう」は開催2回目以降、「シビックテック広場」のルームとして開催しています。

## シビックテックを語ろう

Clubhouseで開催するトークルーム「シビックテックを語ろう」(図2)では基本方針として肩肘張らずに誰もが会話に参加できる雰囲気作りを心がけています。また毎回、参加する人に応じて議論のテーマが変化していくのも特徴です。複数の人とディスカッションすることで、新たな発見や、より深い理解につながるがあります。最近のトーク内容を紹介します。

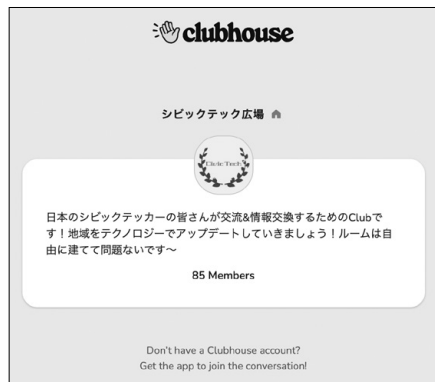
### シビックテックはコードが書けなくても参加できる

「シビックテックはプログラムを書くことができる人しか参加できないのではないか?」という声か

注4 [https://twitter.com/koi\\_zoom1](https://twitter.com/koi_zoom1)

注5 <https://www.clubhouse.com/club/シビックテック広場>

◆図1 Clubhouseで運営しているクラブ「シビックテック広場」



◆図2 トークルーム「シビックテックを語ろう」の様子



ら広がった話題です。「シビックテックを語ろう」の開催をはじめた初期のうちに出てきたこの問いかけ。「シビックテック」の名称に「テック」が入っていることから連想してしまうようです。このことから「シビックテックに興味はあるけれど参加できていない人がいるのではないか」ということでした。シビックテック活動にはもちろんテックな要素はあるのですが、非テックな人でも活躍の場面があります。たとえば地域課題を解決する場合には、エンドユーザーである市民とエンジニアとの間で、課題の共通認識を図るための橋渡し役となる人物の存在が重要です。また、地域課題解決のために作成されたWebサービスもデータを入力する利用者がいないと真価を発揮できません。

### 地域を越えたシビックテック活動

Code for Xの活動は地域だけにとどまりません。分野に特化した活動も可能性があります。おこな先行事例を挙げると、地域猫を地域の資産であるとして、殺処分ゼロを目指している団体の活動を支援する「Code for CAT<sup>注6</sup>」。日本酒のオープンデータを全国の酒蔵と一緒に作り、酒蔵と飲兵衛の顔が見える関係性をネット上でつくる「Code for SAKE<sup>注7</sup>」。雪関連に特化した「Code for Snow<sup>注8</sup>」。各地のCode for X活動に参加している議員が中心の「Code For Giin<sup>注9</sup>」などがあります。

これらの先行事例から、分野に特化した活動を考えてみます。たとえば文化庁のメディア芸術データベースのデータ活用を考える「Code for ANIME」活動をやってみようという話題が上がりました。いかがですか。個人的にすごく興味があります。

注6 <https://code4cat.org/>

注7 <https://www.code4sake.org/>

注8 <https://code4snow.jimdo.free.com/>

注9 <https://www.code4japan.org/news/civic-tech-fun-fun-report-2021-5>



## ローカルニュースを入手する メディアの存在

テレビのローカルニュースが話題に挙がることもあります。みなさん、地域のニュースにはどのように接するでしょうか。テレビで夕方に放送される地元発のニュース枠で知ることが多いことでしょう。2021年の夏はこのローカルニュースの時間が特別編成のため一時的に少なくなるという現象が起きました。テレビのローカルニュースは通常の編成でも1日を通じて2時間に満たない時間しか確保されていない現状<sup>注10</sup>の中、地域で何が起きているのかをタイムリーに知るにはどのような方法があるかを議論しました。

この話題の中ではコミュニティFMラジオにもスポットが当たりました。地域の情報は小さい単位で市民に寄り添った情報発信が行われることが望ましく、それが実現できるのがコミュニティFMラジオ局の存在です。たとえば沖縄県では、19局のコミュニティFMラジオ局があります<sup>注11</sup>。ほかの都道府県と人口あたりで比較しても、面積あたりで比較しても一番多いこととなります。沖縄県は地域の情報発信に積極的なことがその理由のようです<sup>注12</sup>。

## 生活にかかるコストを可視化するには

住む土地を選択する場合、どういった基準で選ぶでしょうか。水道光熱費など生活にかかるコストが現在からどれくらい変化するのかが可視化できるかと思いませんか。引越し先に持っていくことができるもの、引越し先では環境の差異から使うことができず買い替えが必要となるものがあります。この話題では、生活にまつわるコストがどれくらい変化するかの情報をどこから入手するか、その情報

を持っているのは誰なのかを推測しました。



Clubhouseに限らないのですが、ネットを活用して対話をするメリットがあります。それは地域を越えることです。複数の地域で対話することで、地域特有な事象や同じような悩み事を知ることができます。

## Code for Japan Summit 2021 でセッションを担当しました

2021年9月18日、19日に開催されたオンラインイベント「Code for Japan Summit 2021<sup>注13</sup>」でセッションを担当しました。セッションのテーマは「私はこれでシビックテックをはじめました<sup>注14</sup>」です。このテーマもClubhouseトークルーム「シビックテックを語ろう」に登場したものです。全国各地でシビックテック活動を行うプレーヤーのみなさん。その原点、シビックテックの世界に足を踏み入れるきっかけは何だったのかを語ってもらうという企画です。北は北海道から南は沖縄まで、地域をまたいだ6人でトークをしました。

## 宮城真海さん (ChulaTech)

沖縄県で、普段はIT企業で働きながらシビックテック活動をしている宮城さん。シビックテックとの出会いは転職活動がきっかけでした。他業種からエンジニアでの転職を目指す中、プログラミングの技術で生活の糧を得るだけでなく、シビックテックという取り組みがあることを知ります。これが自分のやりたかったこと、出会いたい人たちとマッチしていたことからシビックテック活動に参加することにつながったそうです。

## 澤田 学さん (Code for Snow)

雪が好きで、雪のない大阪府から北海道へ移住した澤田さん。澤田さんのシビックテックとの出会いは、京都府で2014年2月に開催されたイベント「インターナショナル・オープンデータ・デイ 2014 in

注10 2019年度(平成31年度)各地方向け地域放送番組編成計画(日本放送協会)  
[https://www.nhk.or.jp/keiei-iinkai/giji/shiryuu/1324\\_houkoku02-3.pdf](https://www.nhk.or.jp/keiei-iinkai/giji/shiryuu/1324_houkoku02-3.pdf)

注11 総務省 | 沖縄総合通信事務所 | ラジオ放送局チャンネル一覧  
[https://www.soumu.go.jp/soutsu/okinawa/johotuousin/ho\\_rd\\_frequency.html](https://www.soumu.go.jp/soutsu/okinawa/johotuousin/ho_rd_frequency.html)

注12 沖縄県民なぜラジオ好き? (探検!九州・沖縄): 日本経済新聞  
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ03456353008A820C1MLY000/?unlock=1>

注13 <https://summit2021.code4japan.org/>

注14 <https://youtu.be/GeLnyftkgc8>

京都<sup>注15</sup>で、まち歩きをしながら地域情報を収集してオープンデータとして公開するという取り組みを知ったのがきっかけです。以降、イベントへの参加だけでなく企画にも参画するようになります。雪好きが高じて、雪氷学会に入会して研究発表をしたり、Code for Snowの活動を始めたりする澤田さん。実はテック系の経験がないそうです。わからないなりに興味を持った分野にアクションを起こすところが澤田さんの強みです。

### 山口陽子さん (Code for Kusatsu)

滋賀県草津市でCode for Kusatsuの活動に参加している山口陽子さん。山口さんのシビックテックとの出会いは、同じくCode for Kusatsuで活動する奥村美佳さん<sup>注16</sup>と出会ったことがきっかけです。山口さんもコードを書けない非テック系の方なのですが、シビックテック活動の中で、会議で行われる議論を可視化するグラフィックレコーディングに出会います。「私これぐらい描けるわ」という簡単な気持ちで始めたそうなのですが、うまく描けずにへこむこともあったそうです。耳と手をフル活用して議論を描いていくグラフィックレコーディングは、Code for Japan Summitの各セッションでも重要な要素として位置付けられています。

### 譜久原あゆみさん (ChulaTech)

沖縄生まれ沖縄育ちの譜久原あゆみさん。言語化の専門家とSNSコーディネーターとして活動しています。譜久原さんがシビックテック活動をやりたいと強く思うようになったのは今年の2021年4月からで、自身が新型コロナウイルスに感染したことがきっかけでした。感染症に対する情報入手が難しく、何をしたらいいのかわからなかったのだそうです。お世話になった医療関係者に恩返しがたくて、先述の宮城さんとChulaTechの活動をスタートします。現在は沖縄県民向けにInstagramを通じて情報サイト「なるほど沖縄コロナガイド」で情報発信をしています。

注15 <https://www.facebook.com/events/1457413774480215/>

注16 本誌2020年12月号にて、連載第108回を担当。

### 青木和人さん (Code for 山城)

京都府でCode for 山城の活動をしている青木和人さん。活動のスタートは、先ほども触れた「インターナショナル・オープンデータ・デイ」からです。当時はまだシビックテックという言葉はあまり使われていない時期でした。以前からまち歩きイベントなどで市民が集まって何かを行うイベントを企画していたのですが、地域の歴史などの情報が蓄積されないことにもったいなさを感じていました。そんな中、Wikipediaに街のことを記事にして書く「ウィキペディアタウン」という活動について知り、自分がやりたかったことはこれだと気づいたそうです。



ちなみに本稿の筆者、佐藤のシビックテックとの出会いは、Code for Americaのジェニファー・バルカ<sup>注17</sup>さんのTEDスピーチ「コーディングでより良い政府を作る」がきっかけです。2013年にNHKでテレビ放映されたこのスピーチを聴いて「なんでも行政にやってもらうのではない、行政と市民の関係性」や「自分が得意なITの分野でまちに貢献できること」に気づきました。

あなたのシビックテック世界に足を踏み入れるきっかけは何でしたか？ もしよかったら教えてください。

### Clubhouseでシビックテックを語りませんか

今回は音声SNS Clubhouseで、毎週シビックテックをテーマに開催しているルーム「シビックテックを語ろう」について紹介しました。「シビックテック」は名称に“テック”が入っていますが、非テックな人も参加できる活動です。興味があるけれど一歩を踏み出せないでいたあなた。まずはClubhouseで、シビックテックを語りませんか。毎週金曜日の夜にルームを開いていますので、お気軽にご参加をお待ちしています。SD

注17 Jennifer Pahlka: ジェニファー・バルカ「コーディングでより良い政府を作る」 | TED Talk  
[https://www.ted.com/talks/jennifer\\_pahlka\\_coding\\_a\\_better\\_government/transcript?language=ja](https://www.ted.com/talks/jennifer_pahlka_coding_a_better_government/transcript?language=ja)